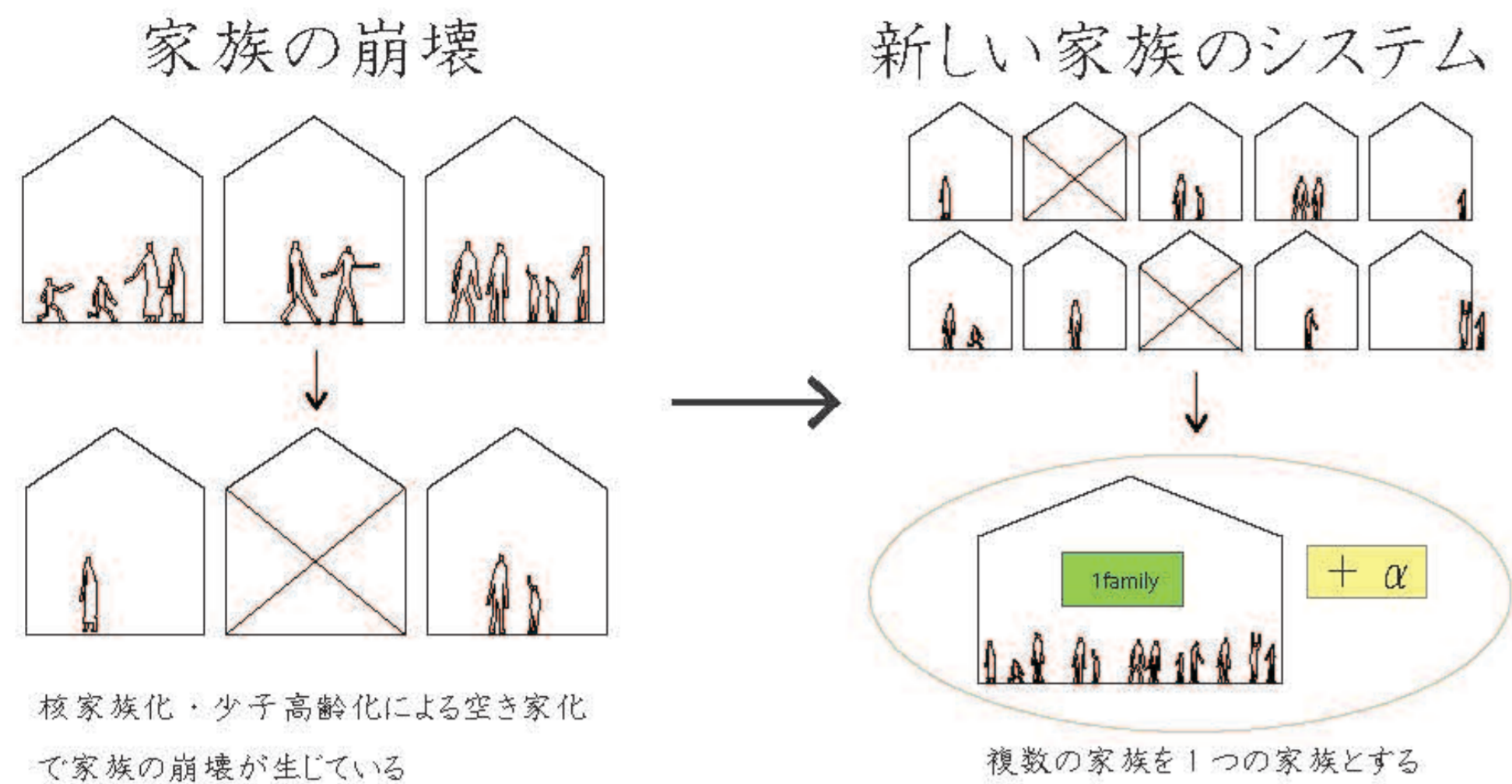
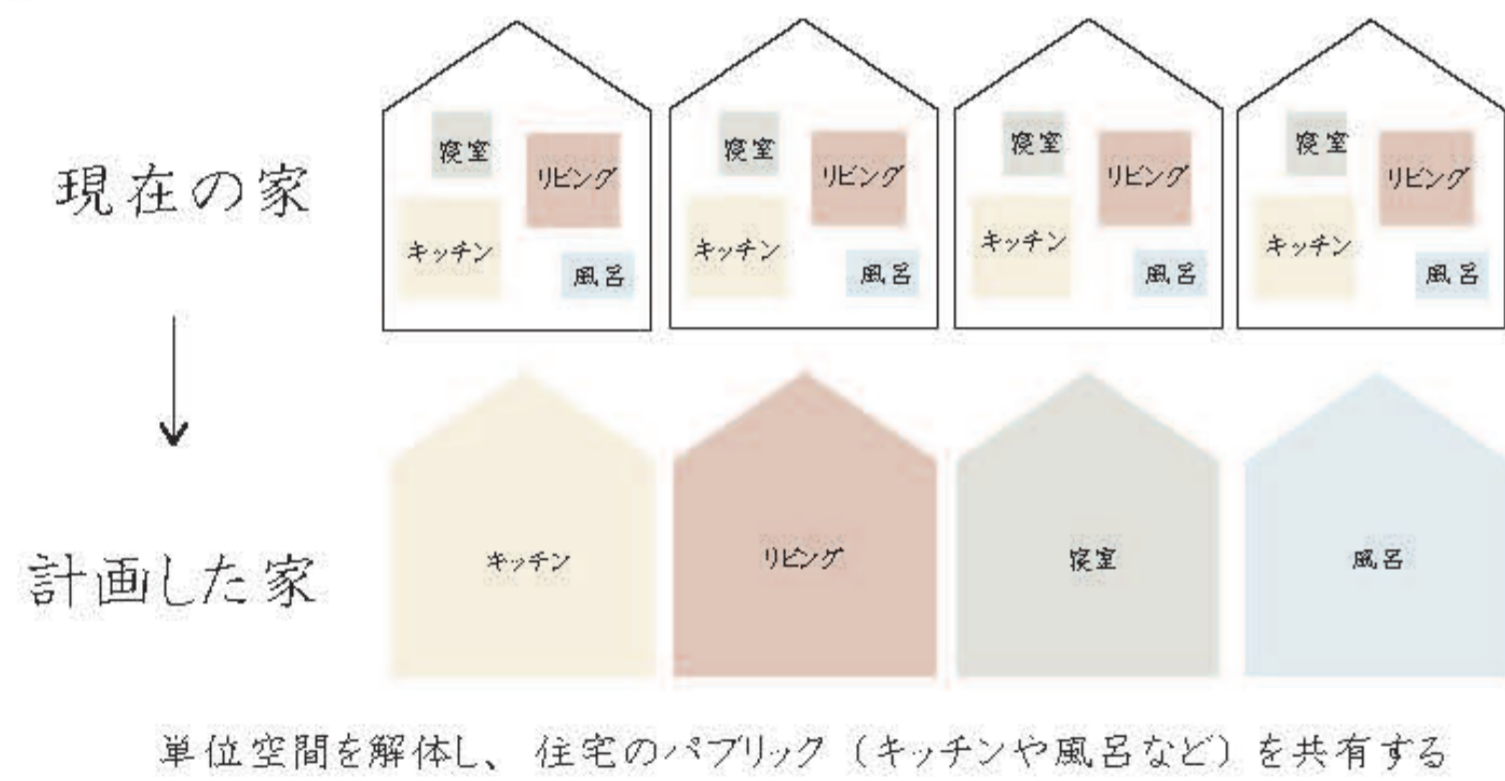


story

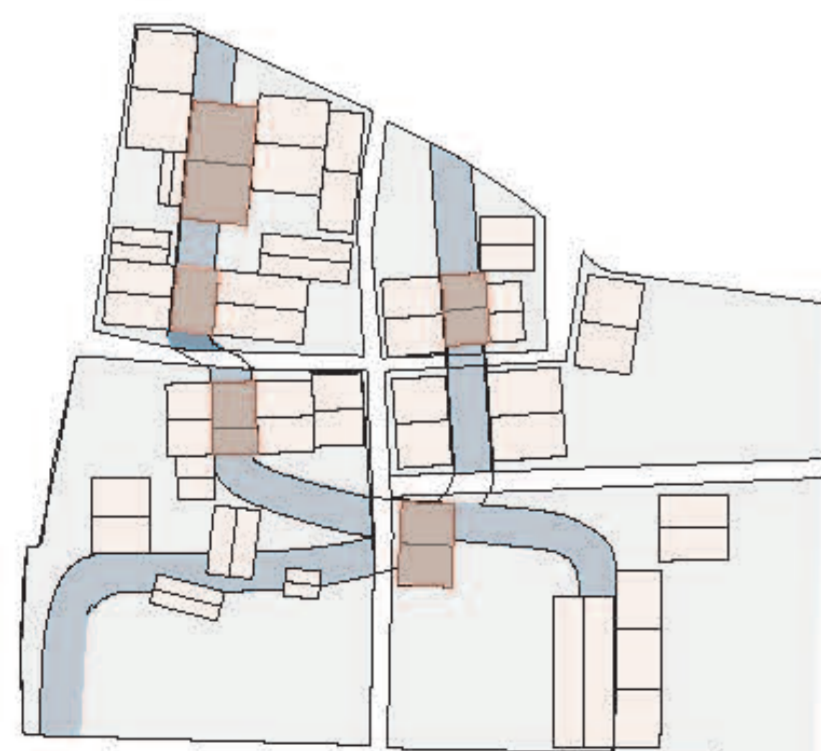


program

1. 住宅単位空間の解体

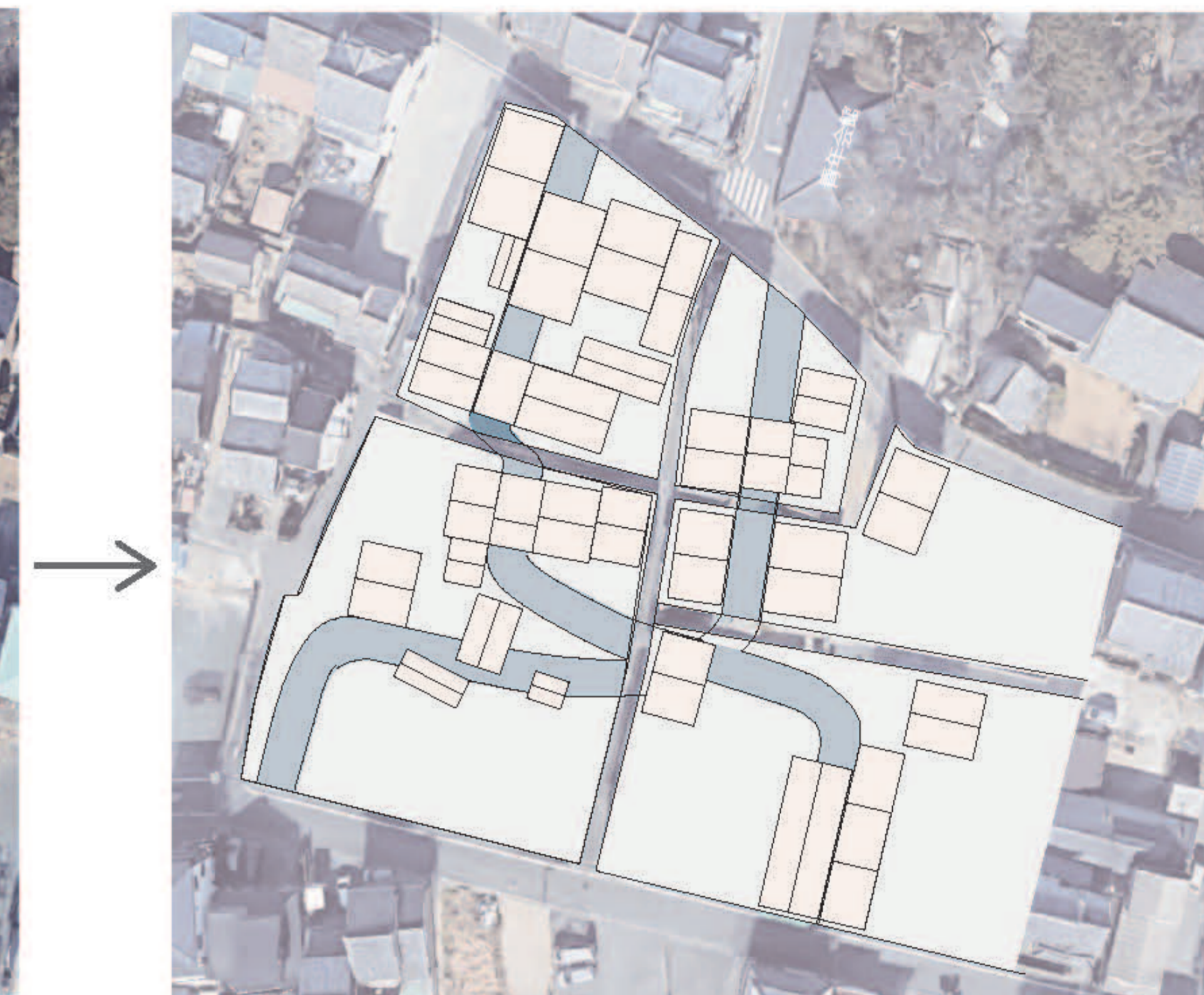


4. 商店街と住宅のパブリックが交わる



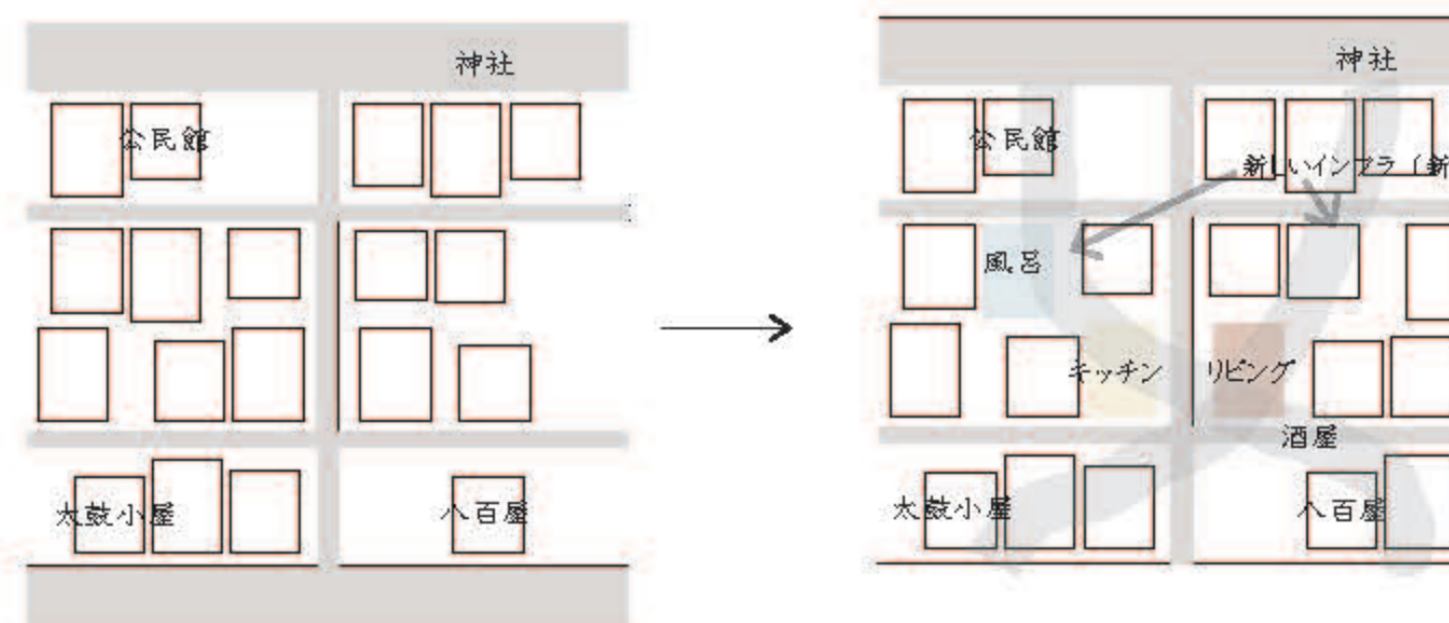
既存住宅と商店街（新築RC造）が交わる木造建築では、コミュニケーションが起こるリビングやダイニングを設け、キッチンや銭などの場所に繋がるようにした。そうすることで、小さなまち家族から大きなまち家族へと拡大する。

site planning



□ 既存木造住宅のリノベーション ■ RC+防火ガラスの新築

2. インフラを差し込む



住宅のパブリック（共有部分なるべく繋ぐ形でインフラを差し込む。それぞれ八百屋と公民館、太鼓小屋と峽佐神社を繋ぐようにして、元からあるコミュニティを可視化した。

4. 差し込んだインフラは災害を防御する



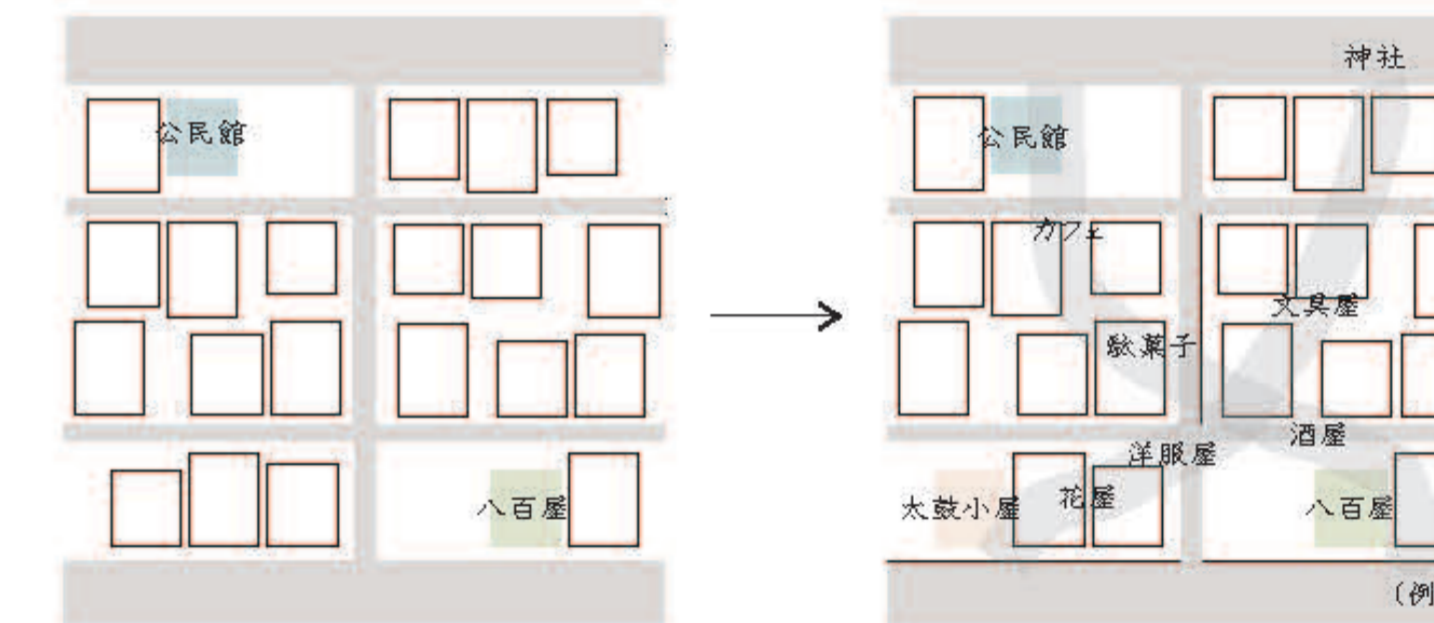
火災

津波

木密地域における火災の危険性を軽減 RC造でできた壁は防火壁としての役割を果たし、火災の延焼拡大を抑制する。

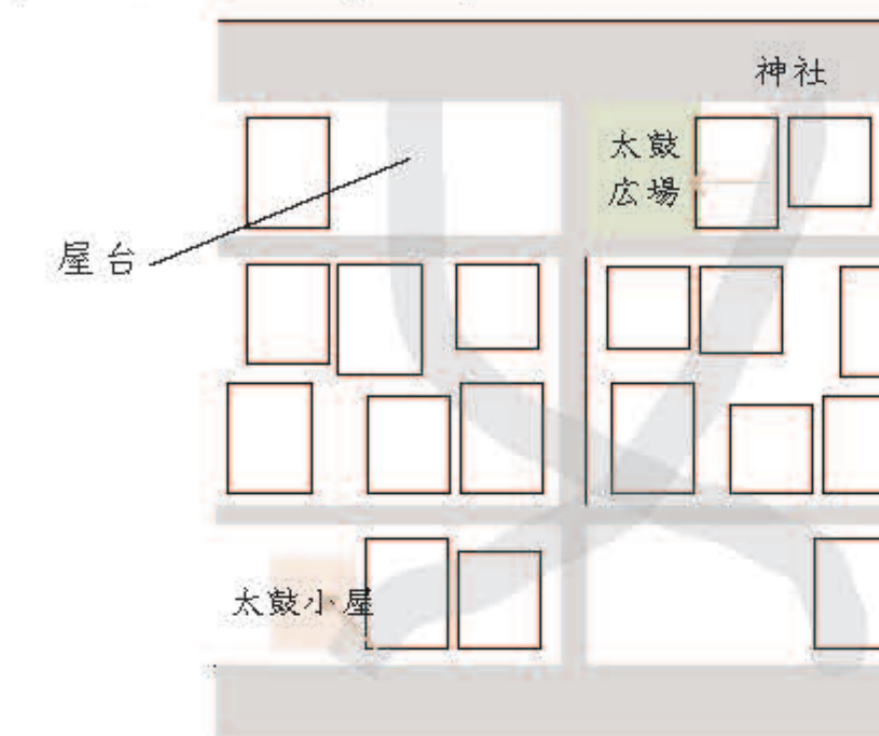
津波避難タワーの役割を果たす。津波の圧力と採光の面を考慮し、南北に長い形とした。

3. まちの人が通り抜ける商店街



まちの人が敷地内の小路を通り抜け使用していることから、通り道の中にまちの人達が自由に出入り出来る商店街とし、まちの循環を促す。

5. 祭文化の継承



太鼓広場（太鼓が方向転換を行う場所）を見られるよう、ガラス張りにした。また、太鼓小屋は従来は開く事が無く、祭りの時のみしか太鼓を見る事が不可能だったところ、商店通りから太鼓小屋の様子を覗く事が出来る。また、祭の際は商店街に屋台が並び。